

地域建設業の担い手の確保・育成に向けて

国土交通大臣 赤羽一嘉



第15回建設トップランナーフォーラムの開催にあたり、一言御挨拶を申し上げます。皆様には、日頃より国土交通行政の推進につき、格別の御理解・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。建設トップランナー倶楽部に参加されている皆様におかれましては、地域防災や老朽化への対応、林建協働などの「複業化」による地方産業創出、第4次産業革命の社会実装による Society 5.0 の実現など様々な取組に挑戦されていることに、心より敬意を表します。

近年、我が国では自然災害が頻発・激甚化しております。私自身も大臣就任以後、平成30年7月豪雨、令和元年東日本台風、令和2年7月豪雨など、多くの被災現場に足を運んできました。その先々で、建設業に携わられる皆様が真っ先に現場へ駆けつけ、発災初期の段階から地域のために昼夜問わず復旧作業に当たっておられるのを目の当たりにするたび、建設業が担う「地域の守り手」としての役割の重要性を強く認識するところであり、改めて感謝申し上げる次第です。国土交通省においても、今後発災が予期される南海トラフ大地震等の大規模地震等への対策をはじめ、国民の生命・財産を守り、社会の重要な機能を維持するため「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に総力を挙げて取り組んで参りますので、引き続きご協力いただきますようお願い致します。

建設業が担う「地域の守り手」としての役割は将来にわたっても不変であり、人と人が支え合って成り立つ建設業においては、まさに「担い手の確保・育成」は重要な課題です。

我が国では、約320万人の方が技能労働者として建設現場の最前線で活躍されています。しかし、この内26%は60歳以上の方で、近い将来これらのベテラン層の方の大量離職が見込まれている一方、それを補う若手入職者数は必ずしも十分とは言えません。このような中で、我が国の建設業が将来にわたる社会資本の品質確保と適切な機能維持の役割を持続的に担うためには、中長期的な視点に立った担い手の確保・育成に向けた取り組みと、i-Construction等による生産性向上を両輪で進めていくことが必要です。

このため、国土交通省では、特に「担い手の確保・育成」を図るため、担い手の処遇改善に向けて、社会保険への加入促進をはじめ、公共工事設計労務単価の9年連続の引き上げなどによる賃金引き上げの取組、若い世代にキャリアパスと処遇の見通しを示すとともに、技能と経験に応じた給与の引き上げを目指す建設キャリアアップシステムの普及促進に取り組んでいます。加えて、工期の適正化や施工時期の平準化、週休2日の確保に向けた取組の推進などの働き方改革等について取り組んでいます。

国土交通省では、こうした取組のもと、「地域防災の担い手」、「インフラの守り手」である地域の建設業が、魅力に溢れ、誇りを持って仕事に打ち込めるよう、その環境整備を図って参ります。

皆様には、今後とも安全で快適な暮らしを求める国民の多様なニーズに応えるための技術の向上、業界の健全な発展や担い手の育成のため、引き続き御協力いただきますようお願いいたします。

結びに、皆様のますますの御発展を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。